

| | |
|------------------|---|
| Title | 陽明文庫蔵「道書類」の紹介(十四):『星の事』翻刻・略解題 |
| Sub Title | |
| Author | 恋田, 知子(Koida, Tomoko) |
| Publisher | 慶應義塾大学国文学研究室 |
| Publication year | 2013 |
| Jtitle | 三田國文 No.58 (2013. 12) ,p.65- 71 |
| JaLC DOI | 10.14991/002.20131200-0065 |
| Abstract | |
| Notes | |
| Genre | Departmental Bulletin Paper |
| URL | https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00296083-20131200-0065 |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

陽明文庫蔵「道書類」の紹介(十四) 『星の事』翻刻・略解題

恋田 知子

前号に続き、陽明文庫蔵「道書類」のうち、『星の事』を紹介する。これまでも述べたように、陽明文庫蔵「道書類」は、仮名法語を中心に、あわせて十八種類の書物が一括されたものであり、慶長・元和年間(一五九六一一六二四)の奥書を有するものが含まれていることや、とりたてて書写時期の異なるものも見えないことから、本書についても、おそらく同じ時期に書写されたものと推察される。

本書は、内題に「星の事」とあり、その内容から法華経行者による陰陽道の星神信仰について説いた仮名法語と位置づけられる。管見の限り、同一内容の作品は他に見出せていないものの、『日蓮聖人註画讃』などで著名な「依智の星下り伝承」について、「わか高祖聖人」(六丁表)の伝として紹介するなど、日蓮宗内における法語であった可能性が指摘できる。これまで紹介してきたように、「道書類」には、禅宗や浄土宗の仮名法語が多く収められるが、前号の『仮名書き法華経』のごとき経典のみならず、本書のような法華経に基づく仮名法語を、しかも日蓮宗の法語をも含むことは、本書物群の性質を考える上で注目すべきものがある。なお、本書表紙裏および二丁目に、

同筆による序文が付されている点も、「道書類」の他の作品には見えず、特徴的である。本書の書誌については、以下のとおりである。

- ・ 函架番号 近ト一七二一イ
 - ・ 形態 写本。一冊。仮綴。
 - ・ 寸法 縦二三・〇糎。横一三・五糎。
 - ・ 表紙 本文表紙共紙。楮紙。
 - ・ 丁数 墨付十八丁。
 - ・ 本文 半葉八丁十行。漢字平仮名交じり。字高約二〇・五糎。
 - ・ 外題 なし。
 - ・ 内題 「星の事」
 - ・ 奥書 なし。
 - ・ 印記 一丁表右上に「陽明蔵」の朱額形印あり。
- 翻刻に際して、本文は底本に忠実を期したが、私に句読点を付すなど、読解の便宜をはかった。なお、見消については、訂正線で示し、衍字や文意不明な箇所には(ママ)を付した。

注

(1) 陽明文庫蔵「道書類」の詳細については、『三田國文』連載の翻刻紹介のほか、拙稿「室町期の往生伝と草子―真盛上人伝関連新出資料をめぐって―」(『唱導文学研究』第六集 三弥井書店 二〇〇八年)、拙稿「説法・法談のヲコ絵―幻中草打画―の諸本」(『仏と女の室町 物語草子論』笠間書院 二〇〇八年)、拙稿「比丘尼御所文化とお伽草子―恋塚物語―をめぐって」(徳田和夫氏編『お伽草子百花繚乱』笠間書院 二〇〇八年)を参照されたい。

(2) 『日蓮聖人註画讃』第十七段「えち御なん」では、龍口を出て相模国依智郡の本間重連の館に送られた日蓮が、夜半に庭の木に降り立った明星の化身と対話したとする。新倉善之氏「日蓮伝小考―『日蓮聖人註画讃』の成立とその系譜」(『立正大学文学部論叢』一〇、一九五九年一月)、篠原幸久氏「日蓮の星下り伝説と虚空蔵寺院 愛甲郡依知郷、そして荻野郷」(『鎌倉』一〇六、二〇〇八年二月)等参照。

附記

本書の閲覧ならび翻刻の御許可を賜った、財団法人陽明文庫に深く感謝申し上げます。また、本書の翻刻・考察に際して、御教示賜った、陽明文庫長名和修先生に、心より御礼申し上げます。

なお、本稿は科学研究費・基盤研究(C) (課題番号二五三七〇二五九)による研究成果の一部である。

【翻刻】

(表紙)

おつて申まいらせ候。このしよの中にしやくそんのほけきやうのあらわれさせをはしまし候はぬ。いせんに大かゝるより八けのいてきたりて候しと

申候は、こんひりやう山にて、とかせをかせしその

「(1オ)

ほけきやうのいせんの事にて候。くをんこうのそのかみ、しやくそんのとかせ給ひしほけきやうよりは八けのはちにて候。くおんと申事いまのきやうに二の心をはしまし候。しやくもんの心は、三千ちんてんこうをくをんとゝき、ほんもんのこゝろは、五百ちんてんこうをくおんと申候也。

しやくもんの心は、三千ちんてんこうとこんひのほけきやうとのそのあひたは、みなほつつけのほうへんにて候。されは、けたう、てんせん、しいかくわんけん、おんやうたう、色くゝの事わさ

までも、みなほつつけのほうへんにてこそ候へ。ほんもんの御こゝろは、五百ちんてんこうのそのさきにはまたく一ほうも候はず。まんほうのこんほんかほけきやうにておはしまし候。

さ候へは、ほけきやうのほかによのほうありととかれ候しとて、によらゐの御ほうへんにて候。しよ一ふつせうとかいゑし候つる。まんほう唯一乗のめうほうにて候。しかあれはとて、ほけきやうのほかに、よのほうをとりわけて、おこなゐ候つるたゝほけきやうかゝつて、によらゐのほうへんになりはつる事ともにて候。こゝろのほうもんにはなをしくわしき事、又當家の大事ともそのさきある事にて候。くはしくは申つくしかたくこそ候へ。

「(1ウ)

「(2オ)

「(2ウ)

星の事

凡人間一期の身のうゑの事をさとり候に、
おんやうの家には、ほしのくらゐをもつて
かんかへ候にや。されは、本命星をもつては、
一期の吉兇貧福をかんかへ、當年星にては
そのとし月の善悪をかんかへ候と

なん申侍かし。これらは、釋迦如来の御
出世をはしまし候はぬ。いせんに、八卦と
申書、大海よりうかひいてゝ候し。その
しよによりて申事ともにて候。また、

人間の本地をほしまいらせ候とかや申事も
いまた法華經のあらわれさせをはし
まし候はぬ。いせんの事ともにて候。猶々
かつて如来の本意にはあらぬ事にて候。

ほけきやうあらわれさせ給てのちは、
いつれのほしなとゝて、とりわけて信
することは候はねとも、法華經をしんし
たてまつり候へは、おのつから本命星も
當年星もまもらせ給ひ候はんする

事うたかひなく候。そのゆへは、いま
天につらならせ給し明星天子も

九曜も七星も火星も水星もそのほか
むりやうのほしたちは、みないつれも
天の童子として、まのあたり靈山の
聽衆にておはしまし候けるか、諸法
實相の妙理を御ちやうもんにて即身

「(3才)

成佛させ給て候ひ、いまも天につら
なりておはしまし候にて、末代にお
るて、法華經の行者を息災安穩に
まもらせをはしまし候はんする
ためにてこそをはしまし候へ。

されは、經にいわく、諸天晝夜常為法
而衛護之と。文のころは、身口意の三
業におこたりなく、ほけきやうを

きやうしまいらせ候はんする人による
よるひるのへたてなく、人の身にか
けのしたかる候へく候。法華行者の
身に諸天善神の御まもり候はんする
よしをとかせをはしまし候。

すてにもろくの天とゝかせをはし
まし候。諸天のうちに、むりやうの
ほしもおきまわりて、晝夜にまも
らせ給ひまいらせ候。

たつねていわく、經文は正直捨の権の妙説
にしてわたらせ給ひ候つる。うたかゝ
まいらせ候へきやうは候はねとも、まさ
しくまのあたりに、諸天善神あま
くたりましゝて、一乗行者をまもらせ
給し事を、いまたうけ給候はぬをは、

いかゝころへまいらせ候や。
こたへていわく、法華經の行者に。初心後心

「(3ウ)

「(4才)

「(4ウ)

「(5才)

「(5ウ)

の不同あり。後心の行者には、あらたに

天の童子くたらせ給て、御まもりと

ならせ給ひまいらせ候。しかあれば、わか

高祖聖人、はんとうさかみの國彥ちと

申ところへ法華経ゆゑになかされて

おはせしとき、おりふし九月十

三夜の明月に、御むかわせ給ひて、

自我偈をあそはし候けるに、天の

明星くたらせ給ひて、御まへなる梅

の木にさしならせをはしまして

御聽聞候けるとかや。そのむめの木

をは、ほしくたりのむめとなづけ

候て、いまにありとかや申侍り候ぬ。

これらは、後心の行者のころ、一の事

ともにて候。さて、初心の行者には、

天のすかたをかへさせ給て、人間と

なつて、かたしけなくも宮仕など、すてに

御身をやつしてまもらせ給ふ事も

まいらせ候。又はまさしき人間の

身に入かわらせをはしまして

まもらせ給ふ事もまいらせ候。

むかし、周の武王には、天の五たゐ

しやうと申、五のほしあまくたりて、

五人の老人を身をにかへてまもらせ

給候けるよし申侍り。かて、かのふううは

「(6才)

高孝の人にてをはし候けるにや、
いかにいわんや、かたしけなくも、
法王の太子たる法華の行者をや。

しかあれば、梵天も帝釋も日輪も月

輪も明星も第六天の魔王も四大天王

もそうして、十方恒河沙世界の諸天

善神も身にもかへ、いのちにもかゝて、

法華経の行者をまもらせ給ひ候はん

事うたかみなく候。さるにては、

本命星も當年星も、いかてか法華経の

行者を。すてさせをはしまし候はんやと、

たのもしくおほしめしまいらせ候。

たつねていわく、周の武王のことくならば、

たとふ法花経をは信しまいらせ

候はずとも、かうくのころたにも

候は、天のめくみあるへしとや。

こたへていわく、孝経に二部あり。一には

外典の孝経、いわゆる孔子の説これ

なり。二には、内典の孝経、いわゆる

釋尊の法華経これなり。しかあれば、

外典の孝経にてて世をさむ

へき時もあり。又、内典の孝経にて

世をさむへき時もあり。いま末法に

入ては、一向にほけにて世をさむへ

き時もあひあたらせをはしまして候。

「(7才)

「(7才)

「(8才)

「(8才)

「(8才)

「(8才)

「(9才)

權教と外典とをそくらへたるに、
外典こんきやうは百千倍すくれて候。すくれたる。權教

さへ、いまの時にはかなる候はず候。

いわんや、おとれる外典にては、いまの

世はおさめかたくこそ候へ。されは、

孔子のごとく、外典をまなひたる

人なりとも、法華經をしんせず候は、

現當の所願むなしかるへし。

そのうゑ、謗法の悪知識に、國王をいの

らせ、悪法を信して、法華經不孝の

身となつては、いかてか現當をいのる

とも、感應あるへく候哉。

たつねていわく、謗法の人々の佛神に

いのりをかけ候へる、あらたにかなふ

事の候をは、當家のこゝろにはなにと

こゝろへ候へし哉。

こたへていわく、謗法の人、邪法もつてをいの

のりを佛神のせういん候をもつて

おほしめしやり候へ。まことの佛神にては

ゆめ／＼あるましく候。まことの佛神の

ちかるには、謗法の國主國民を治罰

させ給ひ候へきよし、たしかなる

せうご候ところに、謗法のいのりをもち

うる佛神は、いつわりをさきとして

法華經のみちをふさき、三惡道のかと

「(9ウ)

をひらいてすかし入なんとするにて
こそ候へ。よつて謗法のいのりは、當座は

感應めかしき事の候とも、しゝうは

かなうましく候。されは、いにしへ雨の

いのりをなされ候けるに、あめはやかて

くたりて候しかとも、洛中に大風ふい

て、内裏などをふきやふり、けつくは

ゆゑなく天子かくれさせ給ひける

事とも候こそふしきにて候へ。

外道の法にても、當座かなう事の候。

しかあれはとて、それかまことの佛神の

内證にかなぬるにて候は、あなかしこ

あるましく候。たゞ謗法の人いのりを

かへる佛神は魔佛魔神にてこそ候へ。

謀計かゝらすは眼前の利潤たりといへとも、

わあに、神明の罰なぐさをあたるとは

他宗の身のうゑにたるよりなく候

こそいたわしく覚候へ。正法の行者の

いのらんいのりには、當座感應の義も

あるへし。又たうさのかんおうは

見候ぬ事もまいらせ候。されはとて、おろか

なるにはあるましく候。正直は一旦の

依怙にあらされとも、つゝに日月の

めくみをかうむるとの神託神妙に

こそ候へ。又轉受まが輕受と申候て、過去の

「(10オ)

「(10ウ)

「(11オ)

「(11ウ)

「(12オ)

宿業こゝにきたつて、大事のさゝ
なんにあひ候へきを、法華經の御
めくみにて、小事のなんにてんし
かゝせ給て候を、凡夫はさとらす
して、小事のさゝをばらんと
いのるいのりのかなはぬとき、ほげきやうに
うらみをかけ、うたかゝるをなしまいらせ候
事は、おろかなる事にて候。

「(12ウ)

たつねていわく、本命星の口傳の
事たう家には、いかゝ申へく候にや。

こたへていわく、まつほんみやう星と

「(13オ)

申は、我ら衆生の本来の壽命のこと
にて候。よつてしゆしやうのほんみやう星をは
妙法蓮華經とならるまいらせ候。されは、
顯本遠壽をそのいのちとすとかや。
しやくさせをはしましまいらせ候。もんの
こゝろは、壽量品の妙法蓮華經すな

わち、ほげきやうのいのちとも三世の諸
佛のいのちとも、无量の菩薩のいのち

「(13ウ)

とも、天照大神のいのちとも、春日大明神の
いのちとも、八幡大菩薩のいのちとも、
一切衆生のいのちともならせをはし
ましたりと申。もつともあり

かたきしやくにて候。又法華經の廿八品

をは天の廿八宿、地には廿八神とあらわれて、

人間をまもらせ給ひ候。天地人の三
ともに法華經の和光利物の躰にて候。

ほげきやうのあらはれさせをはしまさぬ

世の中にこそ、七星を本命星、九

曜を當年星とは申候へ。佛出世の

本懐あらはれては、妙法蓮華經こそ

我らか本命星にてはわたらせ給候へ。

されは、法華經の行者を法華經の

まもらせをはしまし候、本命星の

加護にて候。かくさとりまいらせ候て候へは、

ほげきやうのほかにとりわけて、本命

星も當年星もをはしまし候はず。

天のほしは垂迹、法華經は本地、ほん

地のほげきやうを信じたてまつり候へる。

すいしやくのほしは、いのらすともおの

つから、まもらせ給ひ候はんする事

かけのかたちにしたかうかこことく

にてまいらせ候。

たつねていわく、衆生の本命星を

法華經と申事、しやくのとをりに

こゝろへ候へくて候へとも、いまた、た

なこゝろをさすやうかる。こゝろへ候へく候はずは

まいらせ候やらん。

こたへていわく、本命星と申は、衆生の

本来のいのちこゝろは、妙法蓮華經

「(14ウ)

「(14ウ)

「(15オ)

「(15ウ)

くは衆生の息風にて候。息風は

いのちにて候。されは人間一期の壽命は
一息のいきのつきぬあひた、いきたえ
はつるいのちめつしく候へるいきむな
しくとまり候。猶々、欲界有漏の

色身はいきをもつて、いのちとすと

みえても、この一そくのいきの上には

地水火風の五大具足して候。その

ゆへに、まつひをふくに、いきのふけざるは

かたき地大の徳、水なきすりをふくに、

すりに露のこりたらは水大の徳、つ

めたきてをふくに、あたかなるは

火大の徳、ちりをふくに、ちりうするは

風大の徳、いきをおさゑて手に

とるに、そのたいなきは空大の徳なり。

この五大は、すなはち妙法蓮華經の

五字にておはしました候。されは、

本命星は我らかいのちなり。いのちは

いきなり。いきは五大なり。五大はすな

わち妙法蓮華經の五しにてをはし

まし候つる。一切衆生の本来の壽命

なりける本命星は、たゞ妙法蓮華經

にてをはしました候。かくのごとく

さとりまいらせ候つる。我身すなわち

三身即一の久遠實成の釋迦牟尼佛

「(17オ)

にてこそ候へとおほしめしまいらせ候。

このことわりをありのまゝにときあら
はし給へるを、妙法蓮華經如来壽量

品とおほしめし候へ。この如来と申は

釋尊のみならず一切衆生を如来と

なつて候。釋尊の壽命すてに妙

法華經にてをはしました候。いかてか

我らか壽命妙法蓮華經にもれ候

はんやと、一念きもにめいして、ふか

く信心をいたせは、わか心中の

妙法蓮華經、本命星一心一念の天に

つらなりて、わか身として身を

まもる即身本命星即身成佛の

法門にて候。この時は他念なく、たゞ

歸命頂禮妙法蓮華經の御信心

いよくはけませさせをはし

まし候へ。御祈禱成就御願

圓滿たしかにて候。御うたかふ

をはしました候ましく候。

「(16ウ)

「(17ウ)

「(18オ)

「(18ウ)